

岡山大

来月から教育プログラム

助産師の技術アップ

岡山大学院保健学研究科は二月から、助産師の技術向上や再教育を図る「ステップアッププログラム」を始める。胎児の発育を調べる超音波検査や不妊症の女性らへのカウンセリングなど主に産科医が扱っている専門分野を指導し、全国的な産科医不足に対応できる人材を育てる。

(水嶋佑香)

超音波検査、不妊ケア…

同大によると、こうしたプログラムは中国地方では珍しいといいい、二〇〇七年度の文部科学省「再チャレンジ支援総合プログラム」に採択された。

産科医不足を受け出産をめぐる現場では、正常分娩は助産師が担い、早産や多胎出産などリスクが高いと判断されるケースを産科医が受け持つ、役割分担の傾向が現れている。このため助産師には、より高度な医学知識や助産技術を身に付けることが求められている。

実技が主体の同プログラムは二月十四日に始まり、毎週木曜日に計四回(一回五時間)開催。各回とも定員は十人で、参加者は人形を使った胎児計測など、助産師養成教育では不足している超音波検査の技術を学ぶ。不

産科医不足に対応

妊や不育症の女性への精神的ケアや、妊娠中から始める子どもへの虐待防止プログラム、育児ストレスの解消法などの実習にも取り組む。

責任者の中塚幹也・保健学研究科教授は「離職した助産師が復職に向けたトレーニングの場としても位置付けている。訓練を積み重ねた助産師が活躍することで、多忙な産科医の負担を減らし出産の現場を守ってほしい」と話している。

申し込みは同プログラム事務局にファクス(086-2665-17045)かEメール(jos-an@cc.okayama-u.ac.jp)。
問い合わせは中塚教授研究室(086-2665-6895)。